

五郎沼通信



第18号 平成29年11月発行

この通信は、五郎沼の桜や周辺環境を守りながら、五郎沼の活用方法や今後のあり方を地域の皆さんと考えるために発行します。
(発行部数:200部)

発行者：「五郎沼の桜を守る会」
事務局 瀬川峰雄
紫波町南日詰字小路口70-1
電話：019-672-2656 (FAX兼用)
携帯：090-2270-6771
m-mail：segawa@mineo.jp
Pcmail：shiwajokaso@crest.ocn.ne.jp

五郎沼の堤体に今年も桜の植樹をしました

今年も集中的な大雨は二度もあり、その内一度は、五郎沼の近くの箱清水大銀地区（し尿処理場近く）と廿木地区に床下浸水が出てしまいました。

また、8月の日照不足による稲の不作も重なり地元としては来年は何とか、良い年になりそうですようにと、今年も昨年に続き南側の経塚跡付近から国道沿いに、合計7本の桜の植樹を地元の「史跡五郎沼愛護会」が行い

ました。当日、11月3日（文化の日）は朝から暖かい落ち着いた日和でした。また、同時にやはりここ数年実施している西側堤体の弱り気味の桜に施肥をし、10月3日に亡くなった藤原恒久さんの意志を継ぎ、いつまでも五郎沼の桜を一年でもまた、一つでも花卉を多く咲いて長生きしてもらいたい思いで作業を行いました。



いつもの枝の焼却もしました



駐車場

桜の植樹

丸ピンク（7ヶ所）が今年の植樹の場所です。散歩がてら見に来てください。昨年と合わせて17本となりました。



しっかり土をかぶせて・・・



桜の根の付近に肥料をいれました



今年も白鳥が来ていました



経塚跡

大銀遺跡第3次発掘報告がありました

11月8日に大銀遺跡（し尿処理場の北側）第3次発掘調査では、7ヶ所の井戸跡といくつかの建物跡が出土しました。井戸の中には壊されていないかわらけが重なって出土したもの（写真①）や大瓶（オオガメ・写真②）など出てきました。詳しくは3月17日予定の遺跡調査報告会があります。その時には資料が整理され、より詳しい報告がなされるものと思われます。また、同時に開催予定の町内各団体の活動報告も予定しています。

【「紫波の歴史・文化連絡会」の事務局長 石幡氏より】

写真③ 庇付建物跡



写真② 大瓶（おおがめ）のかけら



写真① 壊されていない「かわらけ」



桜のキノコ（その2）

五郎沼通信第10号（平成27年11月号）でお知らせした、桜の寄生キノコを別な品種で見つけました。

前回案内は「カワウソタケ」でしたが、今回は写真のような白いキノコで、食ができる「ウスヒラタケ」または「人形タケ」のように見えますが、どうも「ベッコウタケ」と言う菌のようです。



ベッコウタケによる倒木被害は、木の芯の部分を食べ



人形ダケ



ウスヒラタケ（可食・裏にヒダ有）

して内側が枯れてしまうのだそうです。そのため葉が生い茂る夏場に葉の重さを支え切れずに突然根元から

倒壊するという事もあるようです。

樹の中の芯の部分の侵食されている可能性が高いのです。そのため完全復旧は難しいのではとのことです。

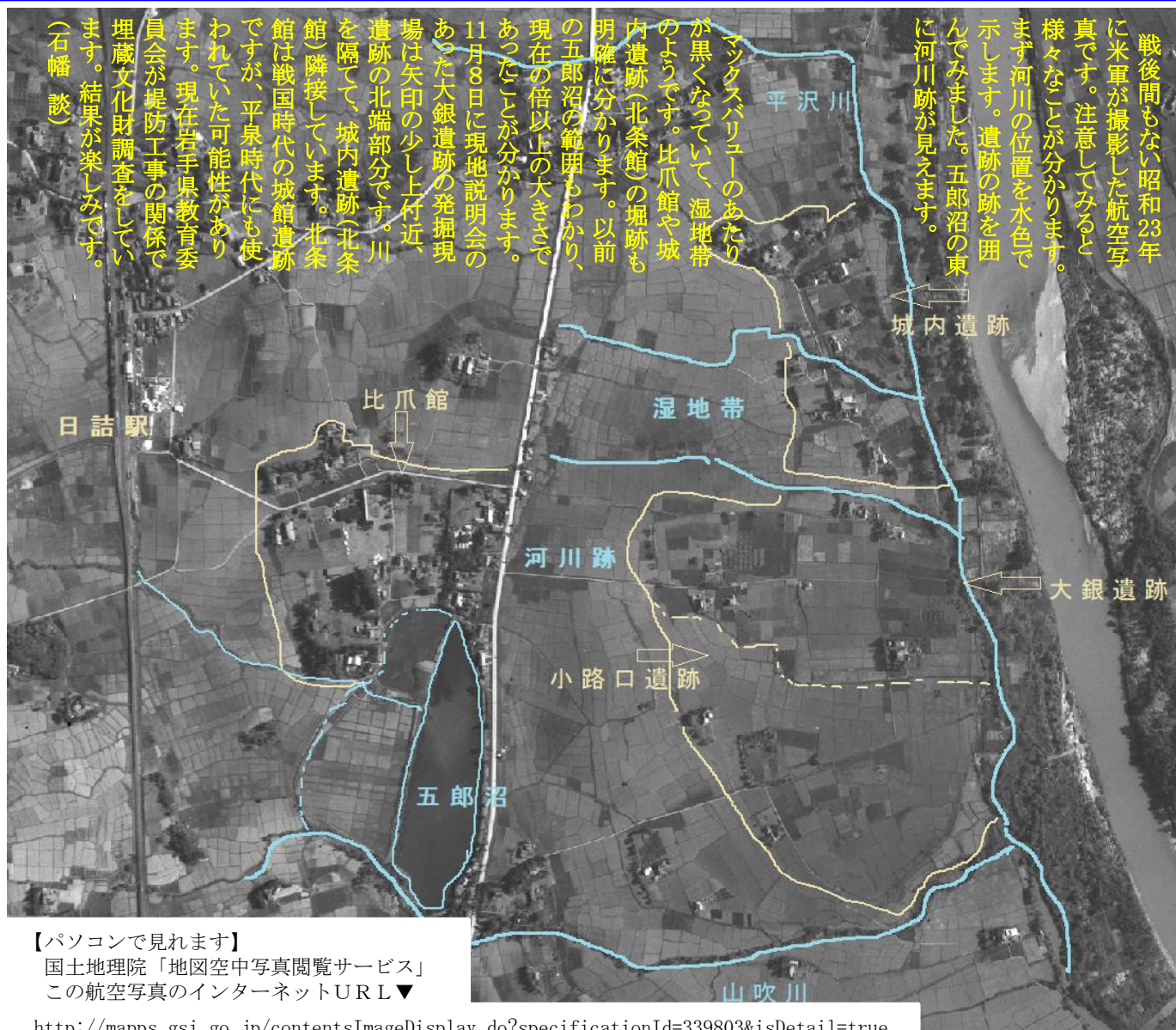
対策としてはキノコが目に見える段階では、すでにかかなり浸食が進んでいるそうなので、まだ被害がない樹木の防備に周囲に※トリコデルマ菌を散布するのが今のところ考えられます。

※トリコデルマ菌とは……

フンタマカビ綱ボタンタケ目ボタンタケ科に属する子嚢菌。無性世代では緑色の胞子を形成することからツチアオカビの名で呼ばれることもあります。一方、有性世代では球形の子実体（キノコ）を作りボタンタケと呼ばれます。森林土壌などに普通に見られますが、時にキノコ栽培に被害を与えるようです。

五郎沼が築堤されたころ・比爪藤原氏の時代（6）

戦後間もない昭和23年に米軍が撮影した航空写真です。注意してみると様々なが分かります。まず河川の位置を水色で示します。遺跡の跡を囲んでみました。五郎沼の東に河川跡が見えます。



【パソコンで見れます】

国土地理院「地図空中写真閲覧サービス」
この航空写真のインターネットURL▼

<http://mapps.gsi.go.jp/contentsImageDisplay.do?specificationId=339803&isDetail=true>